

第六章 麻酔科プログラム

麻酔科医は全ての手術科の術式に精通することが必要であり、術中に起こり得る様々な病態や合併症に対処するために幅広い内科的知識も求められる。さらに麻酔をかけることによる生体の変化や、あるいは麻酔手技そのものを理解するためには臨床解剖学、生理学、薬理学の理解は必須である。

また地方の中規模病院においては、重症患者の急性期管理を麻酔科医に求められることも多い。単に手術室内での麻酔手技をこれらの患者に応用できるだけでなく、一人の患者の全体像を把握し治療にあたる「侵襲制御医学」「急性期全身管理医学」としての考え方を身につけることを、初期研修の到達目標とする。

1. 週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:30～	抄読会 カンファレンス 術後回診	カンファレンス 術後回診	カンファレンス 術後回診	カンファレンス 術後回診	カンファレンス 術後回診
9:30～	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔
11:00～	術前診察	術前診察	術前診察	術前診察	術前診察
午後	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔

※ ホットライン対応の救急患者については随時、上級医について診察を行う。

1. 手術患者の管理

1) 一般目標 (GIO)

- ①手術患者の全身評価を行うことができる
- ②麻酔管理に必要な基本的手技を、安全に正しく施行できる
- ③基本的な疼痛管理が実施できる

2) 到達目標 (SBO)

- ①手術を必要とする疾患と術式について理解する
- ②術前診察を行い、患者に麻酔に関する IC を得ることができる
- ③術前の合併症についての的確に評価できる
- ④全身麻酔管理に必要な術前検査と、その結果解釈について理解する
- ⑤必要に応じて麻酔前投薬の指示が出せる
- ⑥基本的な呼吸・循環管理について理解し、実施できる

- ⑦手術後に起こりうる合併症とその対応を理解する
- ⑧麻薬を含む各種鎮痛薬の基本的な使用法を理解し、実施できる
- ⑨手術患者の不安を受容し、適切な対応ができる

3) 経験すべき項目

①術前診察（患者面接）：

問診と患者評価，患者への説明と同意

②基本的手技：

静脈路確保，動脈ライン確保（動脈血採血），中心静脈路確保，
エアウェイ挿入，マスク換気，経口気管挿管，経鼻胃管の挿入，
腰椎穿刺（脊椎麻酔），尿道カテーテル留置，皮膚消毒法

③麻酔薬の使用：

吸入麻酔薬，静脈麻酔薬，局所麻酔薬，筋弛緩薬，鎮痛薬，鎮静薬

④人工呼吸管理：

調節呼吸（パラメーターの設定），補助呼吸，血液ガス分析

⑤循環管理：

輸液管理，電解質管理，循環作動薬（昇圧薬，降圧薬，抗不整脈薬）

2. 救急患者の管理

1) 一般目標（GIO）

- ①病院前救護について理解する
- ②救急患者の重症度・緊急度の評価ができる
- ③心肺蘇生法を実施，指導できる

2) 到達目標（SBO）

- ①発症状況の把握と病歴の聴取ができる
- ②バイタルサインを把握し，経時的チェックができる
- ③全身の理学的所見をとることができる
- ④必要な検査法を選択できる（採血，画像検査，生理学検査）
- ⑤傷病の重症度・緊急度を評価し，検査・治療の優先度を判断できる
- ⑥BLS，ACLS を実施できる．BLS については指導を行うことができる
- ⑦外傷初期診療について理解する
- ⑧専門医コンサルテーションが適切に行える
- ⑨緊急手術の適応を判断でき，手術部門との連携を取ることができる
- ⑩死亡診断書/検案書が作成できる

3) 経験すべき項目

①軽度な外傷・熱傷の処置

圧迫止血法，包帯法，局所麻酔法，皮膚切開，皮膚縫合

②心肺停止

BLS, ACLS, 原因診断, 家族への IC, 診断書の作成, 死後処置

③急性循環不全

循環血液量減少性・心原性・敗血症/アナフィラキシー性・神経原性

④急性呼吸不全

上気道, 下気道, 肺, 中枢性

⑤脳血管障害

出血 (ICH, SDH, EDH, SAH) , TIA, 梗塞, tPA の適応

⑥意識障害

⑦急性腹症

⑧多発外傷, 重症外傷

⑨急性中毒 薬物, 毒物, 化学薬品, ガス

3. ICU 患者の管理

1) 一般目標 (GIO)

全身管理に必要な知識・技術を正しく身につける

上級医の指導の下で, 治療方針を立てることができる

各職種と適切に連携を取り, 円滑に治療を進めることができる

2) 到達目標 (SBO)

①重症患者の問題点とその原因, 重症度について評価することができる

②治療方針とその効果判定について, 上級医とディスカッションができる

③診療録を POS 方式で記載することができる

④人工呼吸器を使用することができる

⑤各種血液検査血液の結果を理解し, 治療方針に反映できる

⑥各種モニタリング機器の使用法を理解し, 治療に役立てることができる

⑦各種血液浄化法の適応を理解し, 実施することができる

⑧循環補助装置の構造と適応を理解する

⑨基本的な薬剤 (循環作動薬, 鎮静薬, 抗生物質など) が使用できる

⑩基本的な栄養管理 (経中心静脈, 経腸) ができる

⑪患者重症度の評価 (Apache system, ISS など) ができる

3) 経験すべき項目

①多臓器不全患者の管理

②人工呼吸管理

③ショック患者の管理

④多発外傷患者の管理

⑤薬物中毒/CO 中毒患者の管理